

## 第12回 七類の大敷網(おおしきあみ)

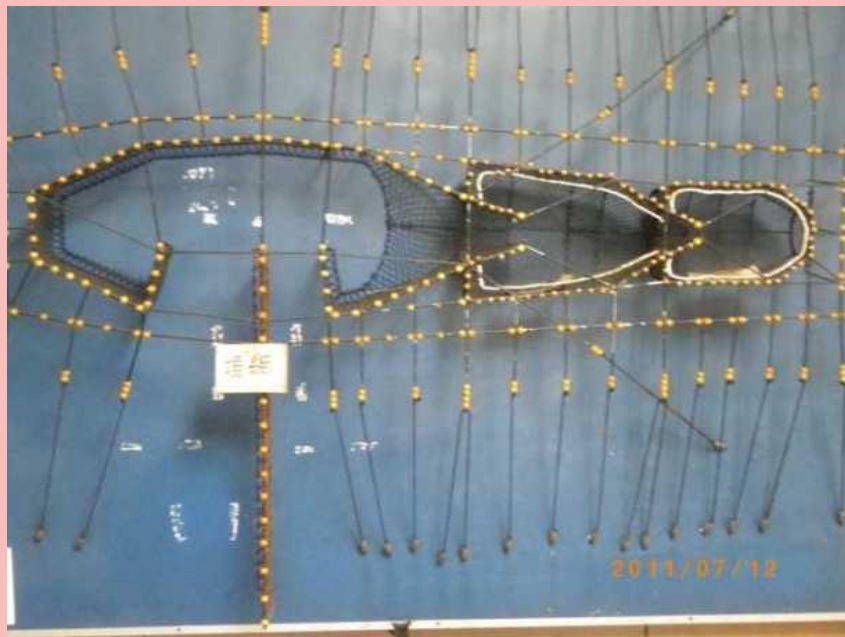
今、松江市にどれだけの種類の魚類がいるのか調べています。方法としては、過去に行われた調査に基づいて作成された生息リストをベースにしなが、新たに出てくる記録や確かな聞き取りを重ねていきます。次には、実際に自分で調査をしてみます。現地調査をしてみると、今まで記載されていなかったものが結構出てきます。

松江市の範囲にある魚の棲むエリアは、河川、池、汽水の湖沼から海に至るまでバラエティに富んでいますので、自ら行うタモ網や投網を使った採集調査から、漁師さんの船に同乗してその時の漁獲物を調べる方法までさまざまです。今回は、最近海域の調査として、美保関町七類で操業される大型定置網の「大敷網」に同乗したので、その一部を紹介します。

2011年6月10日 午前4時15分出漁 まだ暗い中、ライトに照らされた2隻の船にそれぞれ12人と6人が分乗し沖合に設置された大敷網に向かいます。

やや空が白み始めたころから、2隻の船によって網揚げが開始されます。

大敷網(模型)



縦にまっすぐ張られた垣網にそって、魚介類は囲われた網の中に入っていくと、容易に出られない仕組みとなっている。



### 網揚げの開始

全体のバランスをとりながら人力とウインチで網揚げが行われる。

高い位置から網元の指示が出される。下ではベテラン漁師のかけ声が飛び交う。

両サイドから網揚げが行われ、30分ぐらいすると2隻の船はかなり接近し、絞られた網の中に魚が集められます。

### 絞られてきた網



網の中は、乱れて泳ぐマダイやアカエイなどが識別できる。



### 網の中で暴れる魚

網はさらに絞られると、狭いところでひしめく魚の塊となる。

電動のタモ網で網の中の魚介類を掬って、船の生け簀に移される。

この日は、漁獲量はやや少なめでした。漁師さんの話では、夜に潮の流れが変わったことが原因のようです。主な漁獲物は、マダイ、ハマチ、アカカマス、サワラ、ヨコスジフエダイ、トビウオ類、フグ類、カワハギ類、ヤリイカやスルメイカなど30種ぐらい獲れていました。

変わったものでは、シビレエイが1尾混じっていました。漁師さんの中には誰一人食べた人はいませんでした。ならば、と思って、一通り調べた後に煮て食べてみることにしました。

身の部分の味は、アカエイとさほど変わらないものでしたが、胸の近くにある発電する筋肉は、硬いゼラチン質で蜂の巣状に分離する奇妙なものでした。不味くはないが、なんとも形容のし難い食感でした。



シビレエイ(下方)

(平成 23 年 9 月 1 日 自然環境部会 越川敏樹)

